

プログラム番号	09006
---------	-------

平成21年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京大学 大学院新領域創成科学研究科		
②学長名	濱田 純一		
③所在地	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	柏地区事務部新領域担当課・教務係長	
	担当者氏名	ニツ神 和博	e-mailアドレス k-kyomu@kj.u-tokyo.ac.jp
	電話・FAX番号	電話：04-7136-4007・FAX:04-7136-4010	
⑤ホームページURL	http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html		
⑥大学院在学留学生数	195 人 (うち、国費留学生 67 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	サステナビリティ学教育プログラム博士後期課程		
②プログラムの形態	博士課程 (3年間)		
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数		
④実施研究科・専攻	新領域創成科学研究科 環境学研究系 サステナビリティ学教育プログラム運営委員会 (専任教員+4専攻からの委員で構成)		
	(所在地) 〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5		
⑤連携大学・研究科・専攻名	新領域創成科学研究科 環境学研究系 (4専攻: 自然環境学、環境システム学、人間環境学、社会文化環境学)、サステナビリティ学連携機構		
⑥受入れ学生数	博士4人 (うち研究留学生優先配置人数: 2人) (うち日本人学生数: 2人)		
⑦担当教員数	合計16人 (うち専任: 13人、兼任: 3人、非常勤: 0人)		
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名	大学院新領域創成科学研究科・教授	
	研究科長名	大和 裕幸	

【3. プログラムの内容】

1. プログラムの概要

本プログラムは、サステイナブルな社会の実現のために国際的な視野を持って貢献できる人材の養成を目的とした博士プログラムであり、修了者には「博士(サステナビリティ学)」を授与する。すべての講義・演習は英語でおこなう。学生の選抜方法として、本プログラム博士課程学生募集要項による試験だけでなく、これとは別に定める書類選考による留学生受け入れのための選抜も実施する。また、多様な専門分野の出身者を受け入れる。

修士プログラムでは、サステイナブルな社会の構築を目指すために必要な基礎知識や基本概念を習得するだけでなく、専門分野や文化的背景の異なる多様な学生が、演習などを通じて真剣にサステナビリティに関わる課題に取り組み、互いに刺激し合うことにより、実践に役立つ知識とスキルを身につけることで、サステイナブルな社会の構築をめざして活躍できる実務的なリーダーを育てることに重点を置いて教育を行っている。

博士課程では、地球・地域・社会・人間が関わる現実の世界を対象として、分野融合的なアプローチにより次世代のシステムを提案すると言うことが具体的に何を意味するのかを、多くの研究例を重ねることにより学術的に示していくことに重点を置く。サステナビリティ学は、これまで環境学研究系が育ててきた環境学の方法論（既存の学問分野がその枠を取り払って協働する分野融合的なアプローチ、学融合）を基礎として、地球全体での人間社会の持続性（サステナビリティ）にかかわる多様な問題を対象として、さらに時間経過に伴う資源量の減少や土地の制約など時間的・空間的な制約要因を強く意識しつつ、将来システムを提案する学問である。つまり、分野間の境界領域に踏み込み、分析的（Analytical）な方法論のみではなく統合的（Integrative）な思考も併せることにより、システムを俯瞰的・総合的に理解し、新しいシステムの提案につなげるという研究の方向を目指している。博士課程ではそのような研究そのものを通じて、次世代のサステナビリティ学をになう人材を育てるとともに、サステナビリティ学を一つの学問領域として成熟させ定着させることに寄与する。

2. 目標および理念

社会的・文化的にも、経済的にも多様な国際社会において、またその一部を構成する地域社会において、サステイナブルな社会の構築をめざして活躍できる専門家の育成を目標とする。ここで言うサステイナブルな社会の構築とは、地球、社会、人といった異なる時空間スケールでの持続可能性の追究を目指すとともに、将来世代、次世代、現世代といった世代間の公平性（Intergeneration Equity）の確保、先進国と開発途上国といった南北格差の是正により、生態系を損なうことなく人々の生活の質（Quality of Life）を維持できるような新しいシステムを目指すものである。地球全体のサステナビリティの実現のためには、文化的・地理的地域特性を考慮した施策が必要との立場から、特にアジアにおける環境・社会の現状を強く意識した教育・研究を行う。

サステナビリティ学は、対象とするもの・空間・場所を包み込む社会のあり方をシステムとして俯瞰的に扱い、学問分野・地域・民族などの多様なものの隙間を埋めてインターフェイスを作ることで、これまで意識されなかったこと（たとえば資源量の限界のような時間感覚）をどう明示し、解決策に取り入れ、さらに合意形成に導くかを議論する。つまり、学融合を含む異質なものの融合を重視した「態度（コト）」の学問であると言える。

学術的には修士課程と同様な方向性の研究、すなわち、サステナビリティにかかわる問題に対し、分野融合的なアプローチによりシステムとしての理解を深める、あるいは新しいシステムを提案するというような研究の方向を目指している。修士と違うのは、研究に置くウェイトが遙かに大きいので、よりじっくりと学融合に踏み込むことが可能となる。境界領域を攻める場合には、複数の既存領域にもより深く食い込んだ上で、その融合に貢献する研究、あるいは俯瞰的な視野をより拡大した研究などを行う。博士研究の具体的なテーマの例としては、例えば、水資源の制約が大きい地域における統合的水管理と地域ガバナンス、サステナビリティ学のメタファーとは何か、高齢化社会のオンデマンドバス、日本の食糧安全戦略とエネルギー戦略のようなものが想定される。

3. 学生の専門分野と選抜方法

本プログラムでは、多様な専門分野の出身者を受け入れる。入学後は異なる専門分野出身の学生がともに学ぶことになる。各自の専門分野を基礎にしつつ、サステイナブルな社会を実現してゆくために必要な知識・スキル・感性を養うことが本プログラムの目的であり、近視眼的ではない総合的な状況理解能力や判断能力、多様な情報を処理し所定の目的のために再構築できる論理的な思考能力、サステナビリティという概念が包括する多様な要素に対する十分な理解度をもった人材を求める。また、文理融合、異分野交流がサステナビリティ学の基本にあり、1つの見方にとらわれない柔軟な考え方のできる人材を求める。

学生の選抜方法として、本学柏キャンパスにおいて実施する試験による選抜、国外に在住する外国人留学生受け入れのための書類選考による選抜（国費外国人留学生を優先配置特別プログラムなど）を実施する。入学者の選抜については、新領域創成科学研究科のホームページなどで詳細を公表する。

4. 本プログラムで育てるべき人材、期待される職能、および、その活動の場

本プログラムで育てるべき人材とは、社会システム全般を見据え、サステナビリティにかかわる多様な学問分野とのコミュニケーションスキルを備え、1つの問題を多くの視点から見て俯瞰的に理解できる力を持った人材である。博士レベル以上の優秀な研究者が、互いに刺激を与えつつ研究を積み重ねていく環境が、サステナビリティ学を学問領域として成熟させ定着させるためには必要である。

サステイナブルな社会の構築へ向けて、パラダイムシフトを伴う社会の変革にまでつなげるためには、テクニカルな意味で現場を知っていて、システム思考やファシリテーションができることは必要条件である。その上で、サステナビリティの理念に関する深い洞察力とそれを人に伝えることばを持っており、さらに現代社会の複雑な問題について、そこに関わる要素を俯瞰的に見て整理し、分野融合的な手法から新しいシステム提案を行い、それを実行に移すための社会的・地域的な制約を和らげるためのスキルを示すことが求められる。総合的なケース研究の事例を理解し、より大きなリーダーとしてのポテンシャルを要求されることになるが、そのような下地作りに博士課程は必須である。

5. 学位

「博士（サステナビリティ学）」の学位を与える。

6. カリキュラムの概要

本プログラムにおいては、博士研究の遂行と論文の作成が中心となる。選択科目を2単位、サステイナビリティ学博士ゼミナールI, II, III, IV, V, VI を各年次2科目2単位ずつ履修し、さらに1-3年次にわたって、サステイナビリティ学博士研究12単位を履修し、博士論文の審査を合格する必要がある。

7. ホームページ

<http://www.sustainability.k.u-tokyo.ac.jp/>